

# 方法書についての意見書

1. 方法書の名称 九頭竜川水系足羽川ダム建設事業の環境影響評価方法書

2. 環境影響評価方法書について環境の保全の見地からの意見

## (意見)

今回の環境影響評価の項目の中へ、次のような人文的要素項目等を付け加え、予測し評価すべきである。

- 1) 工事用車両による人の健康と生活環境への影響のおそれがあるとして、大気質、騒音、振動等が挙げられているが、それに加えて通行車両の増加等による直接的な危険性、あるいは心理的なストレス等について。
- 2) 水環境における水質の中で、専門家の助言として出水時の濁水の状況把握を指摘されているが、その一環として、部子川におけるダムから下流の、豪雨時とダム放水時を合わせた濁水流下期間について。
- 3) ダム建設中及びダム建設後における、先祖伝来下池田地域として営々と築き上げられてきた、地区住民の生活環境、住環境、コミュニティー、並びに池田町内における地区の立場について。
- 4) ダム建設中及びダム建設後における地域経済の推移と変化を、公共施設の存廃と合わせ評価するべきである。

## (理由)

今回計画された足羽川ダムは、旧下池田村の中央部小畑集落に建設するもので、同地区7集落中5集落が直接の関係集落となっているが、残った2集落についても直接・間接を問わず、大変な影響と不安に見舞われているところである。元々この狭隘な地域に生活する住民は、自然を敬い、自然を守り、自然を活用しながら、自然環境の一部として生活してきたものであり表裏一体である。このため以下のような理由でこれらのことについて

て、調査をし、予測・評価をして頂く必要があると考えるものである。

1) について、現住している地域住民が受けるであろう環境の変化を予測して、既項目が設定してあるものと思われるが、いざダム建設に当たっては現場内重機とは別に一般車両として、測量、調査、監理、人材、物資、連絡等々、ありとあらゆる出入りが予想されるが、いったい延べ入り込み人員、通行車両はどれほどになるか、おそらく膨大な量に上るとと思われるが、沿道沿いの家庭では子供や高齢者をはじめとするほとんどの住民が、物理的な危険性と共に精神的なストレスを強く感じるものと考えられるので、これらについても予測し、調査・評価するべきである。

2) については、従来穴あきダムは洪水時止水するので、水量調整ということでは大きな効果を上げるものと予想されるが、一方汚濁水の流下期間と言うことでは、豪雨時、ダムより下流にある谷々からの濁水は従来通り流れ込むと共に、豪雨終了後、今度は放水期間として濁水が流下し、結局従前に倍した長期の濁水期間となり、河川と河川水の利用で生業をなす者への重大な影響が考えられるので、予測し、評価するべきである。

3) について、7集落（以前は 14 集落）は、地理的にも歴史的にも旧下池田村として一体化した生活環境、住環境、コミュニティを有し成り立っており、これが仮に2集落になってしまったとしたら（可能性大）たちまちにしてこれら機能を失い、かつ池田町内での地位を失うことは明白であるため、これらについて調査し、予測し、評価すべきである。

#### ①地域一体活動及び池田町の中での地位存立の例

- 地区区長会（池田町区長会の中での地位）
- 地区運動会（町民体育祭の中での位置づけ）、
- 地区夏祭り、
- 地区体育振興会（池田町のスポーツ諸団体の中での位置づけ）、
- 下池田公民館分館、
- 消防（防犯）団、
- 母親クラブ、
- 日赤奉仕団分団、
- 老人会、
- 婦人会、
- 沿道美化活動、
- 河川美化活動、
- その他下池田地区内公共物、共有物の維持管理・活用。
- 池田町 森林組合・農協・土地改良区等の理事や監事の人数割り。

4) について、下池田地区には、ほぼ区域内のみで成り立っている事業者や、相互補完関係にある住民が多数生活している。ダム建設中及びダム建設後における、地域経済の推移と変化、特に生業の持続可能性等について、

現存する公共施設等の存廃見込みと合わせ、調査予測し、影響を評価して  
いただきたい。

平成20年 1月30日

### 3. 住 所・氏 名

